

実践報告資料

研究テーマ 『 多様な価値観を認め合える教育の推進 』
 ～自己理解・他者理解を深めるすべての教育活動～

研究内容 【 (1)、(2)、(3)、(4) 】 ※重点的に取り組む内容に○を入れる。

学校名 (丹波市立青垣中学校)

ア 人権教育としてのねらい

- 多様な価値観を認め、自他ともに大切にすることによる人権教育の充実
- ・相手の立場にたって考える力、想像力を高める授業の取組
 - ・差別やいじめを許さない意識と実践力の育成をめざす取組
 - ・多様性を認め、互いを尊重する学校文化の創造をめざす取組

イ 研究の概要

本校は、児童養護施設からの通学生が7名、外国人生徒1名、特別支援学級に在籍する生徒が11名在籍している。これらの生徒の成育歴や特性、言語や文化の違いからくる不安やハンディなどを理解し、支援し、ともに生きる姿勢を育てていく。また、地域には介護施設や高齢者施設などもあり、地域と連携して多様な価値観を認め合い、思いやりの心をもって行動できる力を育てていく。

領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	家庭科担当	2年生担任	3年生担任	1年生担任
実施日	12月4日	12月20日	7月12日	7月、9月
取組名	高齢者との関わり	性的マイノリティの人権	多文化共生	障害者理解
目標	高齢者を理解し、高齢者に対して人権を尊重した関わり方を考える	自他の権利を大切にし、偏見のない社会の実現に努めようとする態度を育てる	多文化共生について考えよう	より良い社会について考えよう
資料名	家庭科教科書	実際の裁判の判例	ビデオ『ようこそ多国籍商店街へ 多様性でシャッター通りを救え!』	ビデオ『見えないを生きる』
指導内容や指導方法の工夫等	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート結果をもとに意見交流する。 ・高齢者疑似体験を通して、その身体的特徴(手先・視覚・聴覚)を理解する。(グループワーク) ・高齢者疑似体験を行ってみて、感じたこと、気付いたことを発表する。 ・これから高齢者とどう関わるか、ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判の内容を範読し、概要を確認する。 ・トランスジェンダーの職員側、経済産業省側、どちらの意見に賛成か個人で考え、ワークシートに書く。 ・ペアトークで出た意見を発表する。 ・両者が納得するにはどのようなすればいいかグループで考え、発表する。 ・本時のまとめと振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な同級生との関わりから多文化共生を考えることで、身近な問題として捉えさせる。 ・前時にビデオを見せておくことで、Mさんの意見を受け入れ易い素地を作っておく。 ・Mさんが自分のスライドを、日本語で発表できるよう準備させておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合のアイマスク体験や講演会と関連のある道徳の内容項目を事前に学習する。 ・酒井先生の講演やサポート体験を通して、障害者理解や、よりよい社会について考える。 ・道徳や総合の授業を終えて、どのように考えが変容したか見比べられるワークシートを活用する。